

平成28年度 国語科授業改善推進プラン

第1学年

<児童の実態>

ひらがなの読みは正しくできている。書きについては、書き方はできているが、字のバランスをとることが難しい児童が数名いる。楽しかったことや出来事を2、3文の簡単な文で表すことはほとんどの児童ができています。「お」と「を」、「え」と「へ」、「わ」と「は」の区別や、促音・拗音などの表記が不完全な児童がまだ多く、引き続き練習を重ねていく必要がある。聞く・話すことについては、みんなの前で話すことに抵抗を示す児童が少なくなってきた。戸惑いながらも自分が書いたことを最後まで話すことができる。声の大きさや速さに気を付けて話せるようにしていきたい。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p>[課題設定] 1年生は集中できる時間が短いため、児童の興味・関心を引きつけられる課題、意欲を持たせる課題の設定に今後も工夫が必要である。</p> <p>[学習形態] 一斉指導の中で、個人差をどのように埋めていくか、個別対応しつつ全体を見ていきたい。小グループでの活動を取り入れていく。</p> <p>[発問・指示・板書計画] 発問、指示は短いことばでわかりやすく伝える。繰り返しでの指示から、一度きりの指示に徐々に切り替えていく必要がある。</p> <p>[教材の活用] 児童が興味をもち取り組めるように教材探しや開発が必要である。</p> <p>[評価の方法] 座席表等を利用して個別の児童評価データを増やし、授業に活用する。</p>	<p>[指導目標の明示] 毎時間のねらいを明確にし、課題の達成感をもたせるようにする。</p> <p>[学習形態の工夫] 2人組、4、5人グループなど活動内容に合わせて効果的な形態を取り、児童間での学び合いができるようにしていく。</p> <p>[発問・指示・板書の工夫] 1時間が終わったときに思考の流れがわかるような板書を工夫していく。児童の多様な考えがひきだせるような発問を工夫する。</p> <p>[教材の工夫] 計画的に準備をし、具体的に活用できるものをそろえていく。</p> <p>[評価の工夫] 児童に学習内容が身に付いたかどうか常に確認し、次の授業に生かすようにする。</p>	<p>[補充的な学習指導] 小テストや視写などを繰り返し、定着を図っていく。個の状況に応じては休み時間や放課後など個別指導を行って補っていく。</p> <p>[発展的な学習指導] 児童の学習の状況に応じて繰り返し反復練習ができるプリントや発展的な学習シートを取り入れていく。</p>

第2学年

<児童の実態>

話すこと・聞くことに関しては、相手に応じ、身近なことなどについて、順序を考えながら話すことはできているが、大事なことを落とさないで聞くことは個人差がある。また、話題に沿って話し合うことは、教師側の支援が必要で今後の重点課題である。書くことに関しては、進んで書くこととする児童が多い。しかし順序を整理し、簡単な構成を考えてという点においては、個人差がある。読むことに関しては、物語文の場面の様子や叙述の様子などを読み取る力がついてきている。読書においては、楽しんで読書をしている。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p>[課題設定] 児童の集中力を持続させるために興味・関心・意欲を持たせる課題の設定、導入の工夫をする必要がある。</p> <p>[学習形態] 自分の考えや意見を考える時間を確保するとともに、考えを伝え合うために、児童同士のかかわり合いを多く取り入れる。</p> <p>[発問・指示・板書計画] 発問・指示は短い言葉でわかりやすく伝える。板書がそのままノート指導につながるような板書を行う。</p> <p>[教材の活用] 単元の目標に沿って、言語活動の充実を意識した活動を取り入れる。</p> <p>[評価の方法] 一人一人の見とりをしっかりとし、それをもとに次時の授業計画を立てる。</p>	<p>[指導目標の明示] 一時間ごとの授業のねらいを明確にし、児童にも学習のめあてを意識することで、学習理解につなげていく。</p> <p>[学習形態の工夫] 個人、ペア、グループ、全体など一斉授業の中でも活動に合った形態を工夫し取り入れていく。</p> <p>[発問・指示・板書の工夫] 授業のねらいにせまるための発問を工夫する。指示が1回でおおるよう、聞く姿勢を常に意識させる。1時間が終わったときに思考の流れがわかるような板書を工夫していく。</p> <p>[教材の工夫] 児童が興味をもって取り組めるような活動やワークシート等を工夫する。</p> <p>[評価の工夫] 児童に学習が身に付いたかどうかノートやプリントなどで確認し、個々の状況を把握する。</p>	<p>[補充的な学習指導] 漢字を授業と家庭学習で繰り返し練習させ、字を正しく丁寧に書く習慣を身につけさせる。小テストで定着をはかる。</p> <p>[発展的な学習指導] 児童の学習の状況に応じて、自分で問題や課題を考えたり、音読や発表の仕方を工夫したりするなどの発展的な学習を取り入れていく。</p>

第3学年

＜児童の実態＞

<p>[観点別結果の分析] 「読むこと」…文学的な文章では、登場人物の気持ちに寄り添って読む児童が増えてきている。説明的な文章では、文章全体の構成を意識して読めるようになってきている。 「話すこと・聞くこと」…積極的に話す半面、目的や意図に応じ、伝えたいことを的確に話したり大事なことを落とさないように聞いたりする力が不十分である。話し手の意図を十分に聞き取れるようにしたい。 「書くこと」…はじめ・中・終わりの構成で文章が書けるようになってきているが、文章の内容を詳しく書くことに戸惑う児童が多い。 「言語」…漢字の読み取りは得意な児童が多いが、書き取りが苦手な児童が多い。</p>		
＜指導方法の課題＞	＜具体的な授業改善策＞	＜補充・発展指導計画＞
<p>[課題設定] 児童が身近に感じたり、関心をもって取り組みたりする課題を設定する。</p> <p>[学習形態] 担任による一斉指導だが、一方的な授業になってしまうことがある。</p> <p>[発問・指示・板書計画] ノートの書き方が雑になってしまう児童もおり、教師側も全員にノート指導が徹底できていない。</p> <p>[教材の活用] ワークシートを活用し、実態に合わせて書く分量を調節した。口頭での説明が多くなってしまい、イメージがわかりにくい。</p> <p>[評価の方法] ワークシートやノートを活用し、児童の読み取ったことや考えたことを評価できたが評価しきれない部分もあった。</p>	<p>[指導目標の明示] 毎時間のめあてを明確にして授業をするとともに、児童にも伝える。</p> <p>[学習形態の工夫] 少人数(ペア、トリオ等)での話し合いを取り入れたり、相互指名したりして、児童同士の活発な授業になるようにする。</p> <p>[発問・指示・板書の工夫] わかりやすい板書を心がけ、書き写す時間もしっかり確保する。</p> <p>[教材の工夫] 写真や絵など、視覚で興味・関心をひきつけるようにする。また、ノート指導に加え、ワークシートを活用する。</p> <p>[評価の工夫] ノートやワークシート集を毎時間集め、評価の観点を明確にして適宜評価を積み重ねる。</p>	<p>[補充的な学習指導] テーマをもとにスピーチを行う。スピーチ原稿や生活作文を通して書くことに慣れる。漢字テストを行い、定着をはかる。</p> <p>[発展的な学習指導] 国語辞典を活用してわからない語句や使いたい語句を積極的に調べる。</p>

第4学年

＜児童の実態＞国語科学力テスト結果

	<p>＜実態の分析＞</p> <p>4観点ともほぼ区の平均レベルであるが、話すこと/聞くことと書くことについては他に比べて区平均よりも正答率が低い。言語事項についてはさらに細かく見てみると、特に漢字を書く問題の反応率が低く、区平均よりも10ポイント以上下回っている。学習した漢字をしっかりと定着させ、それを活用できるようにする必要がある。また、授業中だけでなく家庭学習においても字形や書き順を意識させ、漢字をより丁寧に学習する習慣を身につけていくべきであるといえる。</p>	
＜指導方法の課題＞	＜具体的な授業改善策＞	＜補充・発展指導計画＞
<p>[課題設定] 関心・意欲を高めるため、目的意識を持った学習活動にする。</p> <p>[学習形態] 登場人物の気持ちを読み取ったり性格を考えたりする場面では、個人によって時間に差が生まれてしまうので途中で共有する時間を設け、考えを深められるようにしていくことが必要である。</p> <p>[発問・指示・板書計画] 発問や指示は簡潔明瞭を心がけていく。板書の内容や量をよく吟味し、実態にあった板書や資料を提示していくことが必要である。</p> <p>[教材の活用] 掲示教材以外の工夫が少ないので、ワークシートなど児童がより理解しやすいものを作成していくことが必要である。</p> <p>[評価の方法] 1時間ごとに学習に対する意欲が変化してしまう児童は日常のノートや発言も視野に入れて評価していく。</p>	<p>[指導目標の明示] アクティブラーニングを意識し、より能動的な活動を増やしていく。「～をしよう」や「～を作ろう」などの具体的な児童の目標を設定し、そのことが教師の指導目標と重なるようにする。</p> <p>[学習形態の工夫] グループ学習では協働的な問題解決学習を取り入れ、国語を苦手としている児童も主体的に楽しく学習に取り組めるようにする。</p> <p>[発問・指示・板書の工夫] どの学習でもノートを十分活用できるよう板書計画を充実させる。自分なりに分かりやすいノートを作成できるようにしていく。</p> <p>[教材の工夫] 話すこと・聞くことの学習ではパネルディスカッションなどを取り入れ、視覚的にも表現する力を伸ばすようにする。</p> <p>[評価の工夫] 授業中の話し合い活動などの様子も日々記録するようにする。</p>	<p>[補充的な学習指導] 漢字は個人差が大きく、実態に合わせて、課題を設定し、家庭学習などを含めて練習させるようにする。</p> <p>[発展的な学習指導] 漢字の熟語を含めて、新しく覚えた言葉をいろいろな場面で活用する機会を設ける。</p>

第5学年

＜児童の実態＞国語科学カテスト結果

	<p>＜実態の分析＞ [観点別結果の分析]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読む、話す・聞く、言語事項については東京都の平均を上回っている。 ・書くについては、東京都の平均を下回っている。なお東京都の平均も、54%と低い数値となっている。 ・学力調査、日々の観察から、自分の考えを文章で表現する力に課題がある。書く活動に重点を置き、表現力の向上を図る手だてが必要である。 	
<p>＜指導方法の課題＞</p> <p>[課題設定] 学習への興味・関心が高いので、知的好奇心を刺激できるような課題を与えると意欲がより高まる。教科書の教材を基にしてさらに調べたり書き足したりしていけるような課題作りを工夫する。</p> <p>[学習形態] 全体で話し合うと限られた児童の発言だけで終わってしまうことがある。一人一人の児童が自分の考えをもち、主体的に学習に取り組めるようにすることが大切である。</p> <p>[発問・指示・板書計画] 課題に取り組む際は考えることが明瞭な発問を心がける。また、答えが多様にできるように、発言を受け入れるような雰囲気を作れるよう配慮する。板書をノートに書き写すことで手いっぱいの子も見られるため、板書する内容を精選する。</p> <p>[教材の活用] 児童にとって興味・関心を持ちやすく、学習意欲が高まるような教材を用意する。</p> <p>[評価の方法] 評価をその後の指導に生かせるようにする。</p>	<p>＜具体的な授業改善策＞</p> <p>[指導目標の明示] 学習活動における身に付けたい力を明確に示し、理解させる。その力をつけるために必要なことを学習課題として設定し、主体的に取り組ませる。</p> <p>[学習形態の工夫] 個人で課題に向き合う時間、2、3人の少人数で話し合う時間を設け、少し自信をもたせてから全体での話し合いにしていける。</p> <p>[発問・指示・板書の工夫] 児童にとって学習活動が明確になるような発問を意識し、思考をめぐらせて自分の考えを持ったり、発言したりできた時には、積極的に称賛していく。児童の考えや意見が整理できるような板書を心がけ、色を使い分けするなどして視覚的にも訴えられるようにする。</p> <p>[教材の工夫] 新聞記事、実物、映像など使用して、より学習に取り組みやすくしていく。活動の目的がはっきりするような教材を提示する。</p> <p>[評価の工夫] 児童の作品やノート、発言の様子などを適切に記録していく。また、友達と相互評価するような場面を作り、評価を通して、児童に課題を明確につかませる。児童にとって必要な指導を行えるよう教材研究をする。</p>	<p>＜補充・発展指導計画＞</p> <p>[補充的な学習指導] 書く力が全体的に弱かったので、自分の考えを書いたりTも立ちの書いた文章を読み合ったりする活動を多く取り入れていく。</p> <p>[発展的な学習指導] 読書量も多く、優れた力をもつ児童には、同じ作者の違う作品、同じジャンルだけれど違う作者の作品などを比較して読むことができるような準備をしていく。</p>

第6学年

＜児童の実態＞国語科学カテスト結果

	<p>＜実態の分析＞ [観点別結果の分析]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査「国語A」「国語B」ともに、都の平均点を上回る結果となった。 ・「話すこと・聞くこと」においては、都の平均を大きく上回る結果となった。→昨年度は、下回っていた。 ・「書くこと」においても、昨年度と比べて、ポイントを伸ばす結果となった。 	
<p>＜指導方法の課題＞</p> <p>[課題設定] 児童の初発の感想をもとに、教師が設定している。児童にとって、解決したい課題になっているか検討していく必要がある。</p> <p>[学習形態] 「読むこと」においては、一斉指導を中心に授業を展開しており、工夫が必要である。</p> <p>[発問・指示・板書計画] 「書くこと」においては、相手意識、目的意識をもたせてから、書かせているが、単元後半にいくにつれて、意識が薄くなっていく様子が見られ、課題であると感じている。</p> <p>[教材の活用] 原則教科書を活用しているが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」については、児童の興味が薄く内容になるよう、多少内容を変更し、実践していくことが必要である。</p> <p>[評価の方法] ノート・発言による評価を行っている。ノートへの記述の規準をより明確にしていく必要があると感じている。</p>	<p>＜具体的な授業改善策＞</p> <p>[指導目標の明示] 児童にとって、魅力的な課題を提示していく。また、児童自身に課題を立てさせ、それを全員で解決していく方法もとっていく。</p> <p>[学習形態の工夫] 「読むこと」については、読み取りが苦手な児童も多いため、ペア学習やグループ学習を取り入れていくようにする。</p> <p>[発問・指示・板書の工夫] 「書くこと」については、最後まで相手意識、目的意識をもって取り組めるよう、毎時、それらを確認していく。</p> <p>[教材の工夫] 児童の実態に合わせて、児童の興味関心が高まるような単元を設定をする。</p> <p>[評価の工夫] どの程度読み取れていたらいのかを授業前に明確にしておく。</p>	<p>＜補充・発展指導計画＞</p> <p>[補充的な学習指導] 全国学力調査から、ローマ字の理解が十分でないことが分かった。時間を見つけて、復習する時間を設けていく。</p> <p>[発展的な学習指導] 「話すこと・聞くこと」については、他教科等でも実践を重ね、さらに力を高めていけるようにする。</p>